

編集後記

多文化共生研究所 谷口智子

昨年4月に直腸癌が発見され、6月、8月、12月と3回手術をした。幸い初期の癌で転移なく終わったが、その過程で切った直腸は戻ってこない。直腸を切ったことによるデメリットは大きく、Quality of Lifeとは、ほど遠い生活を送っている。授業を減らしてもらい、教授会や委員会活動も、免除もしくは限定的な活動に限った生活を送っている。

人生には何が起こるか分からない。ある日突然病気になったり、戦争になったりする。プーチンが勝手に始めたウクライナ侵攻が始まって1ヶ月経った。平和や国際的協調、つながりがテーマの21世紀に、前世紀的なミニ「ソビエト連邦」の復活という過去の亡霊に取り憑かれた独裁者の脳内妄想が現実化した。突然、一方的なウクライナ侵攻が開始され、多くの都市が破壊され、300万人の人々が難民として国外に流出している。

北朝鮮のミサイル開発や実験も続き、日本海は脅威にさらされている。なぜ軍備開発に勤しむのか。技術を使ってみたい人々がいるからだし、戦争をするとお金が儲かる人々がいるからだ。人命よりも経済や自国のイデオロギーを優先する人々がいる以上、戦争は無くならない。

しかし、人類には、断絶や戦争よりも、つながりや平和を重視する価値観がある。ロシアが犯した非人道的な戦争犯罪を非難した国連総会の議決に現れているように、多くの国や人々がプーチンのロシアの一方的なウクライナ侵攻に反対し、非難している。周辺国に逃れた大規模な難民を、多くの隣人が受け入れている。不条理な侵攻が行われれば行われるほど、人々の一致団結力やつながりや平和の力がますます強くなっている。両極端な人類の方向性、断絶や戦争と、つながりや平和を観ながら、私たちは『共生の文化』16号を編集していた。

2021年度から著しく予算が削られ、紙面媒体では発行できなくなったが、webジャーナルとして発行することになった。小池康弘所長のもと、亀井伸孝副所長、谷口智子、大学院生の福田薫、馬場由美子のチームで編集した。

去年よりは少し早い桜がもう満開である。世界が両極化する今、日々の幸せを観ていくことが、大事だと思っている。

2022年3月25日 天草にて